

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 15日は、高気圧が日本の南を東へ移動する。北日本を中心とした冬型の気圧配置は次第に緩む。
- 16日は、気圧の谷が日本付近を通過する。その後は19日にかけて日本付近は冬型の気圧配置が続く。

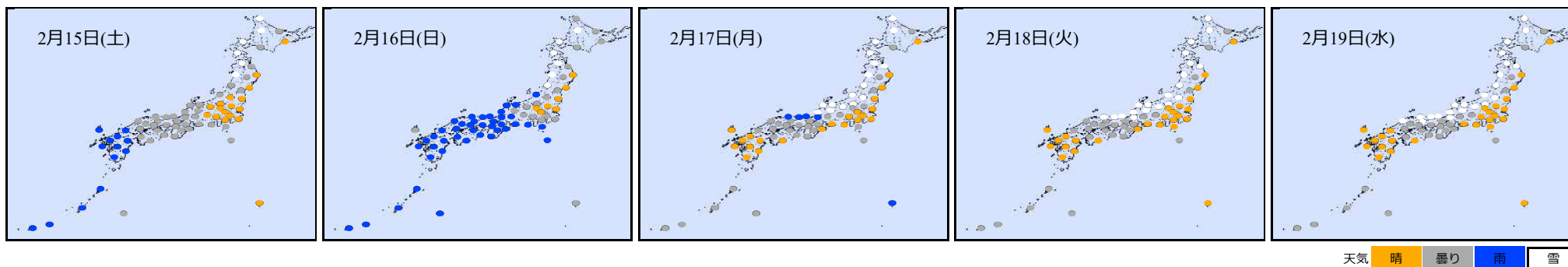
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 特になし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

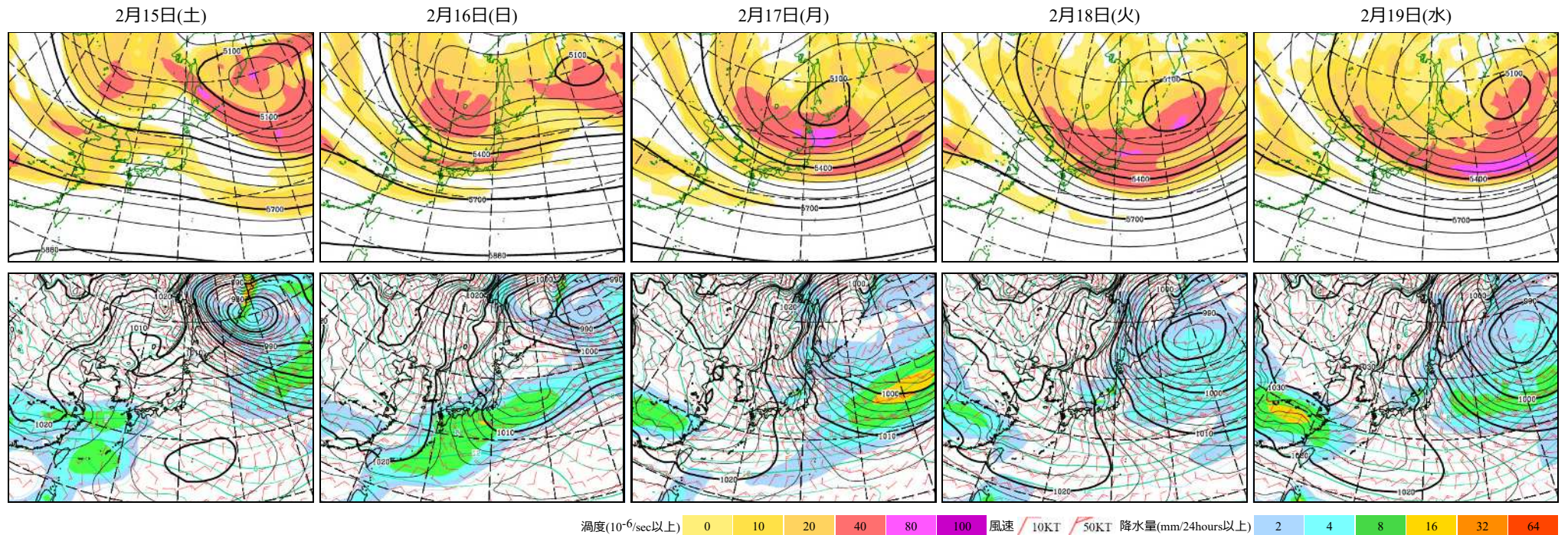
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

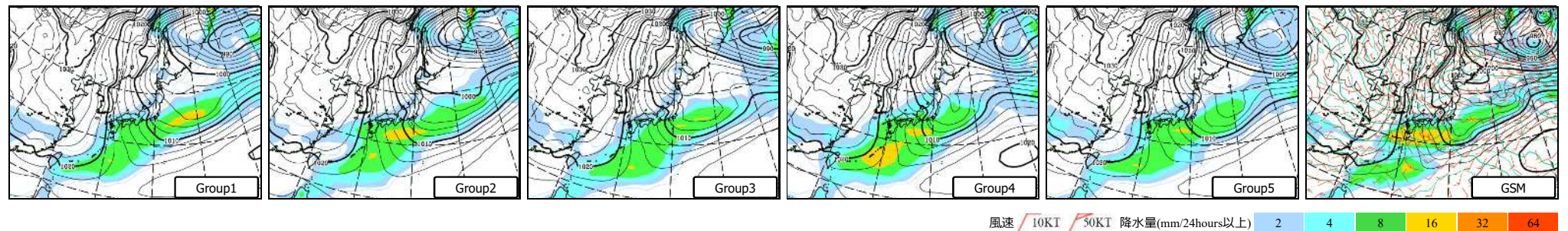


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、15日から16日にかけて雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、15日から16日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月16日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、16日頃は日本の南岸付近を気圧の谷が東進する予想に変わりないが、昨日予想よりも降水域が北に広がる予想となった。スプレッドは縮小した日が多く、特定高度線のばらつきは昨日予想よりも小さくなった。
- 16日頃は、各モデルとも気圧の谷もしくは低気圧が日本の南岸付近を東進する予想となっているが、気圧の谷の位置や東・西日本への降水域の広がり方についてはモデル間の差が大きい。
- 16日に気圧の谷が通過した後は日本付近は冬型の気圧配置となるが、冬型の気圧配置の強まりの程度等についてはモデル間で差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。